

案 件	第1回 阪南市地域子育て拠点再構築PT会議
日 時	平成28年12月7日(水) 14:00~
場 所	阪南市役所 3階 全員協議会室
出席者	市長、総務部長、総務部理事2名 プロジェクトメンバー12名
<p>■会議の要旨 (市長挨拶)</p> <p>皆さんこんにちは。ご苦労様でございます。プロジェクトチームの初会合ですが、非常に感動しております。いよいよチームが動くのかという想いがあります。阪南未来子どもプロジェクトという別名を付けまして動かしていく初日でありますので、私の思いもお伝えをさせていただかねばいけないと、そのように思っております。</p> <p>長くこのこども館構想を議論してきて、このようなすばらしい冊子にもなりました。中身も随分長い時間をかけて、多くの方が参加をされて作られた計画でございました。しかし、この計画自身が首長選挙の争点になり、その首長を決める時に改めてこの是非を問うことになった訳です。そして、フォーマルな形での民意というのが、この総合こども館を一旦止めようということになった訳です。私流に云いますと、このこども館構想を白紙に戻そう、ニュートラルに戻そうということを私自身は強く申し上げてきました。これは地域で公立の保育所、幼稚園が営まれていて、緑豊かなところで、老朽化はしているかもしれませんが、先生方に愛され、また、地域の方にしっかりと支えられ運営がなされている。それぞれに保育所、幼稚園の役割があって、特に保育所では働くお父さん、お母さんたちが暮らしの近いところで、保育所があって欲しいというような思いを受けて、これまで公立のこととして、運営がなされてきた訳です。そうしたことが、ひとつにまとまろうとした。そして、そのプロセスが非常に問題あったというふうに思っているのです。いくら議会を含めて、審議決定された中身であったとしても、当事者の参画、そして市民の参画、そのために必要な情報の提供、情報の共有、そういったようなものが無くては駄目だったのだと。そして、阪南市が長く、市政として大事にしてきました自治基本条例とか、子どもに関して云えば、関係の審議会や会議があります。そうしたところをしっかりと大事にしながら手続きが踏めていなかったというようなこともあったと思います。そして子どもたちの子育てや育ちのことを一つにすることによって、様々な問題とか課題を整理してこれからの阪南市における将来の子どもたちのビジョンの事とか、お父さんやお母さんをどんなふうに支えていくのかとか、そうした子育てや育ちの政策としての整理がなされていなかったのではないかと。そういうことも課題となった。それに、子どもたちも親もそうですが、やはり地域、地域でのまちづくりということのテーマで議論がきちんと出来ていなかったのではないかと。出来ていなかったことをずっと述べておりましたが、民意というのはそんなに難しいものではなくて、きつともっと単純なわかりやすい形で示されたのではないかとというふうに申し上げたかったのです。私たちがこれからミッションとして、お手元資料にしております。この後、しっかり、お話があらうかと思っておりますけれども、一度止めたこの事業をもう一度地域の中で子育て、子育てができるような環境の中に</p>	

もう一度置き直して、地域の子育ち、子育ての拠点を再構築するという事の中で公立の保育所、幼稚園の再配備をもう一度考えていこうじゃないかというようなことが大きなテーマです。そして、それに関連する施策についても議論する必要がありますし、そうした地域、地域で執り行われる子育て、子育ち、そしてまた、保育所、幼稚園そうした活動を支えるような形でヤマダ電機さんの跡地、跡の建物を上手く使えるようなことがあれば素晴らしい。施策との関連についても、充分にご議論をしていただくことになろうかと思えます。時間がないので、非常に急ぐ形になります。急ぐということと、そして、その中で先ほど申し上げました住民参画をしっかりと徹底する。行政と市民が一緒に持っている市民参画なり民主的な手法で物事を進めていくという手法をしっかりと使い切ってもらって、大事な阪南市の子どもたちの未来を創って行くという、そういうところのビジョンをしっかりとこのPTで持ち合えるような仕事もして行かなければいけない。これを短時間の中で、取り組んでいかなければいけないと思うのです。先ほど出来なかったことをずっと申し上げました。こうした素晴らしい絵を書いた訳ですが、でもこれは否定されたのです。このようなやり方は、これまでのある意味、良くない行政の一つの仕事の進め方であったと仮にすれば、今、PTは短時間の中で、やろうとする仕事の仕方、仕事のあり方、求め方というものは、実はこれから阪南市が各部署で仕事をしていく上での、とても大切な仕事を実際にここでやってみようということだと思っています。皆さん方が、プロジェクトチームでやりきっていただいたこの仕事ぶり、仕事のプロセスというのは、市民参画を大事にしていくこのプロセスが今後の阪南市が多方面で、市民協働で仕事をしていく上での大事な教訓にもお手本にもなるということを強く申し上げたいのです。是非ともプロジェクトチームというものに、大きな期待と誇りを持っていただいて、仕事を進めていっていただきたいと思えます。

もう一つ、申し上げたいのは、プロジェクトチームのミッションをあまり難しく考えないで欲しいと云うようなことはちょっと矛盾していますが申し上げたいです。また、あまり子ども、子どもに集中してしまいますと物事が見えなくなります。子どものことを考えようとしますと子どもに責任をもっているのは親御さんや家族です。また、地域の皆さんです。そうしたことを無しに、子どもだけに焦点を当てて守ろうとすると実際には子どもの未来を守れなくなってきました。ちょっと視野を広げて、やはり家族のこと、地域のことをその中で子どもたちのこと、子どもたちの未来が見えるようなみんなを描き出していくような、そういう仕事していただきたいと思えます。

井上ひさしという方が、こういう言葉を残しています。皆さんがPTの仕事について、難しいことを云われるなど、難しい仕事に取り組んでいくのだと思われていると思えます。井上ひさしさんはこう云われています。難しいことを易しく。易しいことを深く。深いことを面白く。面白いことは真面目にしっかりと責任をもって、大真面目に私たちは取り組んでいかなければならないと思えます。このPTに入って良かったなど、良い仕事が出来たということとして、市民の皆さんにも喜んでいただき、また、阪南市全体職員に分かっていただけるような仕事をしていただきたいと思えます。最後にもう一点申し上げたいのは、このプロジェクトチームは皆さん方、大いに力を発揮してもらいたいと思うのです。

が、これは私のやりたいことだけではありません。市民の声を反映して取り組んでいただく必要があるのですが、みらい戦略会議でしっかりとこれが否定されて、もう一度しっかりターンを切って、市民の皆さんともう一度議論をし直して、新しいそういう仕組みを作るのだと。ターンを切って短時間でものを仕上げるために、プロジェクトチームというものを作ろうとした訳です。みらい戦略会議の中で、このPT、プロジェクトチームが生み出されたということの一つご理解いただきたいと思います。そしてこのプロジェクトチームは多くの職員の皆さんにしっかりと支えられているということも確認していただきたいと思います。そして、もちろん私の市長としてやりたいこと、権限はプロジェクトのチーム長にもしっかりとお渡しして、皆さん方その力を十分に発揮していただきたいと考えております。何度も言いますが、本当に難しいことですが、易しく、また易しいことは深く、深いことは面白く、面白いことは真面目に責任を持ってやろうということをございますので、いろいろな事、話をしながら泣いたり、笑ったりしながら仕事を進めていきたいと考えております。多くの方が関心を持っておりますが、期待もされておりますので、是非とも皆さんのお力をお借りして、この仕事をやりとげていきたいなと思っておりますので、改めて宜しくお願ひしたいと思います。健康には十分注意をしていただいて、そして、こんな事を云って良いのかとか、こんな事を云ったら上司がいるので怒られるのではないかなど、あまりそのようなことを思わずに、このプロジェクトチームは何でもしゃべって良い、何でも思いの丈をぶつけて良いのだと。いろんな事は私、水野の方でもお受けさせていただきますので、思い切ってお話をして、進めていただきたいと重ねてお願ひいたします。スタートでいろいろ申し上げましたが、ミッション等これからの進め方につきましては、また、リーダー長の方からお話があるかと思っておりますので、どうか忌憚のない意見を言っていただければと思います。どうぞ宜しくお願ひをいたします。

(市長退席)

(会議資料の確認)

- ・ 次第
- ・ 阪南市地域子育て拠点再構築プロジェクトチーム設置要項
- ・ 阪南市地域子育て拠点再構築プロジェクトチーム設置について
サブタイトル：～阪南市こども未来プロジェクト始動～
- ・ プロジェクトチーム（PT）メンバー一覧
- ・ 地域子育て支援プロジェクト検討等スケジュール概要（案）
- ・ 阪南市地域子育て拠点構築プロジェクト推進にあたっての整理シート作成について

・・・・・・・・・・・・・・・・PTメンバー自己紹介・・・・・・・・・・・・・・・・

地域子育て支援プロジェクト検討等スケジュール概要（案）の説明

- ・このPTにおいて、今後、どのような流れでどのような検討をしていくのかのイメージレベルの資料である。
- ・幼稚園・保育所のあり方等について、旧家電量販店建物の利活用等について、市民参画等について。これをミッション、コンセプトとして来年の夏頃を目途に一定の方向性を出していく。
- ・3園3所の耐震診断等については、これも含めてPTでの検討としているが、まい幼稚園を除く6施設で12月補正計上を予定している。可決されたならば1月に発注準備を行って、2月からの作業になる。これが概ね5月から6月頃にある程度の数値が出てくる。
- ・幼稚園・保育所のあり方検討については、前半に現状、課題等の把握、整理を行い、これらを踏まえながら後半で、施設等の方向性の検討を行う。
- ・旧家電量販店の利活用については、交付金を既にいただいており、今後、国との協議等々により前倒しで検討していかなければならない状況の可能性はある。
- ・市民参画等については、最終的には説明会やパブリックコメントになるかと思うが、市民参画の視点からは、ワークショップからタウンミーティング等々、様々な手法が考えられるので、このプロジェクトチームで議論しながら、市民の意見を取り入れ、また、それを反映できる形で取り上げていく。
- ・子ども子育て会議との情報共有、情報提供をもとにご意見を十分踏まえて、方向性を見いだしていきたい。
- ・取り組み状況等は適宜、みらい戦略会議や議会に報告を行うことになる。なお、夏以降、幼稚園・保育所のあり方、旧家電量販店跡の利活用の方向性が決まった後、所管部署において取り組むという流れのスケジュールとしている。

【PT会議の議事要旨】

(開催の関係)

2回目以降は、まもる館を予定している。

時間は3時半以降の開催を基本に案内する。

(耐震診断の関係)

今回の耐震診断の予算計上としては、3所3園で進めているが、たんぼぼ園も含めて子育て支援センターを含めてこのPTで議論していきたい。

耐震診断では、こども家庭課と教育総務課とみらい戦略室、公共施設活用課が入っているが、状況に応じて組織横断的にやるミッションであり、随時連携して対応する。

耐震の予算の動きとして、所管課が予算を上げて、所管課が説明する役割分担になっているが、関連する議論はPTで行う。

(とりまとめ方)

現状と課題については、総合こども館計画の推進課程はもちろん、以前から幼稚園、保育所についていろいろなものを積み重ねてきているので、今後も使えるものは使う。しかし初回は先入観をもたずに、真っ白な状態から着手する。

ミッションは3つあり、要は保育所、幼稚園、子育て支援センター等のハード面、ソフト面からの子育て拠点の整理、旧家電量販店の利活用検討である。コンセプトについては、まず安心・安全が一番。二番目が市民参画、三番目が持続可能性である。

4園3所について、市長は7つがスタートラインであるとお話されているので、それをベースとして組み合わせを考えることも必要。

PTの中で運営形態も含めて議論した上で出していく。とりまとめについては、これまで積み上げてきたものをベースに使えるものは使うが、まずは原点に戻って、頭を白くしたところから議論を始める。

(PT会議の情報共有)

PT会議の資料については、庁内ではオープンが原則となる。ただ、意志決定過程の資料になるものは、慎重な扱いをお願いする。オープンすべきでない資料については、事前に説明するが、少なくとも、所属長、部長にはオープンして差し支えない。

それとは別に、適時、みらい戦略会議にて情報提供する。

みらい戦略会議の結果で、会議の開催通知であるとか定例的な案内については、PTメンバーのところと直属の上司に案内するという事になっている。

会議で使った資料、会議録要旨、これは作るのに時間がかかるかもしれないが、会議資料と次第、要旨については、PTメンバーと直属の上司に読んでいただくが、短期決戦になるので、間に合わないときは原則を乗り越える形になる。

他の職員に対する情報提供は、こちらからの発送する文書に合わせて、部局長、課長レクの時に相談いただいて、どの程度下ろすのか判断していただく。

(情報開示 情報共有 透明化の視点)

秘書広報と連携して、ホームページで情報公開していく。

次回以降になるが、ワークショップなり市民参画、市民説明会は全面公開を基本とする予定である。

園長会、所長会、副園長会、補佐会、園長所長合同会議、副園長補佐合同会議ではこれまで、多くの議論がなされてきた。今後の運営には情報開示と情報共有をきちんとしていかなければならない。現場の意見を大事にすることが市長からの命題でもあることから、PTとしても積極的に出向く。

(マスコミ対応)

マスコミや市民からの問い合わせについて、メンバーに来たときはみらい戦略室の方で

まとめるような形を基本とする。

(連携)

プロジェクトチームの事務局はみらい戦略室となっていることから、連携をとりながら一緒に対応する。

(プロジェクトチームの作業スケジュール)

交付金を頂いている関係を含め、様々な制約がある中、上京の上、国への説明協議も予定している。急な状況変化も予想されるので、必要な情報を出しながら可能な限り前倒しで進める。

(整理シートの作成)

まずPTメンバーの頭の整理をしていただきたい。目的は、これから市民参画を諮っていくため。特にワークショップ、タウンミーティングの中では、市民感覚が大事なので、改めて行政のプロであると同時に一住民という視点をもって作成をお願いしたい。

くらしの現実とみらい(生活全般)に向き合って、子どもの視点、地域の視点、両方の視点から理想の子育て環境を議論して、現状の子育て施設、ハード、ソフト、理想とのギャップを埋めるため、具体的かつ現実的な方向策として埋めていく作業である。

提出については、12月14日(水)を締め切りとする。

・・・・現場視察・・・・・・

石田保育所、はあとり幼稚園、旧家電量販店跡地(建物)

以上